

みんなで地域を快適に

大田区立都南小学校

実施学年：6年
生徒数：38人（1学級）

実施教科：家庭科
実施時間数：3時間

自分の生活をよりよくするために、既習の知識及び技能を基に問題を見だし、課題を設定し、解決する力を養い、主体的に実践する子供を育成するための指導の在り方を研究している。学習指導要領に示されている家族や地域の人々との本研究では、2年間の家庭科での学びを通して、自分の生活をよりよくするために、既習の知識及び技能を基に問題を見だし、課題を設定し、解決する関わりについて、5年生では、自分と家族との関わりについて学び、さらに、学校での「ともだち班」活動や就学時健康診断における体験と関連付けて、家庭科の学習において低学年との関わりについて学ぶ。また、6年生においては、自分の生活時間について考える際に家族と触れ合う時間について問題を見だし、解決するための方法を考える。この学習においては、「快適な住まい方」との関連を図って、家族や地域の人々と快適に住まうために、生活の仕方によって発生する生活音を取り上げて、自分の生活や行動を見直す機会とした。2年間の学習の集大成として、家族や地域の人との関わりを大切にしながら、快適に過ごすためにはどのようにすればよいか考え、実践できるような題材を設定した。

☆音と快適な生活の関わりについて考えよう

- ・この音は快適かな？不快かな？
- ・同じ音を聞いても、音の感じ方が違うのはなぜだろう
- ・地域で快適に過ごすために、音を出すとき気をつけることを考えよう

☆地域の人々との関わりを考えて生活しよう

- ・地域の人からのビデオレターから考えよう
- ・地域でどのように過ごすといでしょう。

☆近所の音を探してみよう

- ・羽田の町にはどんな音があるだろう

☆学校音を測定してみよう

- ・学校の音はどうだろう



学習のねらい

- 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることや音と生活の関わりが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解する。（知識及び技能）
- 地域の人々とのよりよい関わりについて問題を見だして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。（思考力・判断力・表現力等）
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、地域の人々との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

学習活動

- 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることを理解することができる。
- 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることを理解することができる。
 - ・調べてきたことを基に、地域のルールやマナーについて話し合う。
- 音と生活との関わりが分かり、快適に生活するためには地域の人々との協力が大切であることを理解することができる。

準備品

- ・学習用教材スカイメニューアプリ「発表ノート」
- ・プレゼンテーションソフト
- ・騒音計

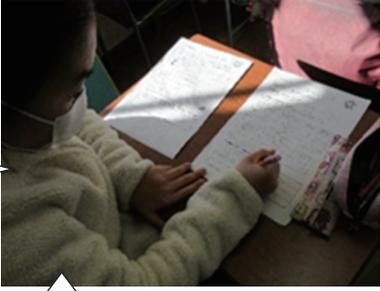
実施場所

- ・教室
- ・校内における騒音測定

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室</p> <p>1 時間</p>	<p>地域の人々との関わりを見つめよう ・音の感じ方を考える。</p> <p>犬が好きだからうるさいと感じません。</p> <p>音を出す立場、音が聞こえる立場から考える。 ・地域の人と共に快適に生活するために自分の行動を見直す。</p>  <p>どこの子供かなあ。うるさくて集中できないよ。</p> <p>〇〇ちゃん、がんばっているな。発表会の練習だな。</p>	<p>・快適な音や不快な生活音を聴く</p>  <p>音を出す立場から考える。 ・同じ音が聞こえても不快と感じる人とそうでない人の違いについて考える。</p>  <p>音楽会があることを知っているから、リコーダー練習を応援する気持ちかもしれません。</p>  <p>地域の人に迷惑にならないようにしましょう。</p>	<p>○「せせらぎ」「工事」「犬の鳴き声」の音を聞かせ、快適な音と不快な音を感じさせる。電子黒板に学習用教材スカイメニューアプリ「発表ノート」を活用し、人により感じ方が違うことを実感できるようにした。 ★人によって感じ方が違うことがよくわかった。</p> <p>○6年生がリコーダーを練習するプレゼンテーションを活用して近隣の人の感じ方について考えさせるようにした。 ★地域の人と顔見知りや関りがあると地域の人に分かってくれる。</p>
<p>教室 校庭</p> <p>1 時間</p>	<p>地域と生活音について考えよう ・調べてきた地域の音から、地域のよさを考える。</p> <p>公園には子供たちの声がいっぱいでした。午後5時を知らせるチャイムもなります。</p>	<p>・地域にある音について発表する。</p>  <p>飛行機の音もしていました。</p> <p>工場の音がする。ずっと住んでいると何とも思わないけど、引っ越して来た人はうるさく感じるかな。</p> <p>「火の用心」「交通安全」など地域の人の見回りの声も聞こえました。</p>	<p>○子供たち自身が感じた音には、様々な音があり、地域の特色があることに気付かせる。羽田空港に近い地域であるが、子供たちが住む地域の上空を通過しないように、地域の人々が長年にわたり、働きかけていることを知らせる。 ★地域の音には、地域の安全を守るために見回りをする音や地域の特色である工場の音もあることに気付いた。</p> <p>○地域の音から子供たちが住む地域の様子を実感できるように</p>

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室</p> <p>1 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の音の大きさを調べ、生活音について考える。  <p>騒音計で測ると音の大きさの違いがよくわかるね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の音について調べる。 調べた結果から生活と音について考える。  <p>学校にもいろいろな音があるね。同じ場所でも静かな時と、騒がしい時ではかなり違う。</p>	<p>○騒音計で学校のおとについて調査することで、音の大きさを実感させる。</p> <p>★教室でも静かなときと、話し合っているときの大きさはかなり違う。</p> <p>★音楽室の音はかなり大きい。</p> <p>○学校でも話し合いの時や教室移動の際に配慮しなくてはいけないことを考えさせる。</p>
<p>教室 校庭</p> <p>1 時間</p>	<p>地域の人々との関わりを考えて生活しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と地域の人々との関わりを振り返る。 <p>地域の人には、私たちに期待していることが分かりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 快適に生活するためには地域の人々との協力が大切であることを考える これからの地域での住まい方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人との関わりについて考える。  <p>地域の人と顔見知りになると、災害のときにも役に立つ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人からのメッセージを書き、これからの地域の人との関わりについて考える。  <p>地域でお互いに分かり合える関係を築くことで、トラブルが減ると思いました。</p> <p>地域の人には、私たちに期待していることが分かりました。</p>	<p>○地域の方からのビデオレターを見せることで地域の方の願いを知らせる。</p> <p>ビデオレターは地域の自治会長にお願いし、地域行事への参加や、地域での子供たちの役割について話をしていた。</p> <p>★地域のお祭りや行事に参加することが大切だ。</p> <p>地域の人と知り合いだと災害の時に役に立つことが分かった。</p>

生徒の作品

みんなで地域を快適に

6年1組



めあて

(音と快適な生活)の関わりについて考えよう

(友達の場合は、赤で記入しよう。)

1、みんなが快適に生活するための工夫を考えよう。

(1) 音を出すときに気をつけることを書こう。

音は出さず指づかひだけを練習する。防音
ひたすら集ふを見て覚える。時間帯
周りの住んでいる人達の気持ちを考える。

(2) 同じ音が聞こえていても、音の感じ方が異なるのはなぜだろう。

その音に対して好き、きらいが人によってあるから。
その音の理由を知っていて聞くのと、知らないで聞くのは感じ方がちがうから。
交流がない。
性格 聞いている人の環境

2、これまでの自分の生活や関わり方をふり返り、地域を快適にするために自分にできることを書こう。

(1) 自分の音などで地域の人に迷惑をかけないように気をつけること

音を出すことには、地域の関わりが大切なことにおどろきました。私の家の周りの人との関わりを大切にしたいです。

みんなで地域を快適に

6年1組



めあて

(音と快適な生活)の関わりについて考えよう

(友達の場合は、赤で記入しよう。)

1、みんなが快適に生活するための工夫を考えよう。

(1) 音を出すときに気をつけることを書こう。

時間帯(夜など人の静まりかえっているときにははなし)窓をしめたりとびらをしめたりして音が外にもたないようにする。施設のルールを守る。音を出さず指だけ布団をかぶる人の迷惑にならないようにすること。

(2) 同じ音が聞こえていても、音の感じ方が異なるのはなぜだろう。

その時の気分や状態が違うから。聞いている人の環境。その音が嫌いなのかもわからないから。心の広さや考え方が違うから。信頼関係の差。状況がわからず聞いているか分かっていないか。

2、これまでの自分の生活や関わり方をふり返り、地域を快適にするために自分にできることを書こう。

(1) 自分の音などで地域の人に迷惑をかけないように気をつけること

色々な状態の人のことを考え配慮して音を出そうと思った。

みんなで地域を快適に

6年1組



めあて

音をきいたり、調べたりして考えよう

1、地域にはどんな音があったでしょう。

外の用心の音風がふいたときにおどろかす音
工場の音、車やバイクの音
教室の音、音の差、ホールの音

2、学校生活での音を調べて、考えよう。

<調査活動> 学校生活での生活音の大きさを調べよう

(1) 様々な場所や場面の音の大きさを調べよう。

場所	時間や場面	音の大きさ (デシベル)	場所	時間や場面	音の大きさ (デシベル)
教室①	静か	40.2 dB	図書室	2時45分 静か	31.5 dB
教室②	さわがしい	75.5 dB	多目的ホール	2時48分 静か	35.9 dB

(2) 調べた結果から気づいたことや考えたことを書こう。

静かなときとさわがしいときの数値が差があまりないなと思いました。同じ静かなつもりでも音が大きさが全然違うことが意外でした。

3、学習をふり返ろう。地域の音と快適な生活のために考えたこと

地域の音を調べて不快に思ったものもありました。けれど昔から聞きなれている工場の音は私は不快には思わなかつたけれど、最近この土地に聞かなくなった音は不快に思うようになったので周りのことを考えて生活したいと思いました。

みんなで地域を快適に

6年1組



めあて

音をきいたり、調べたりして考えよう

1、地域にはどんな音があったでしょう。

子供たちが公園で遊ぶ声、工場の機械音、飛行機の音

2、学校生活での音を調べて、考えよう。

<調査活動> 学校生活での生活音の大きさを調べよう

(1) 様々な場所や場面の音の大きさを調べよう。

場所	時間や場面	音の大きさ (デシベル)	場所	時間や場面	音の大きさ (デシベル)
教室①	静か	40.2 dB	学習室	黒板消しカチカチ	100.4 dB
教室②	となり同士でしゃべり	75.5 dB	学習室	机を動かす音(4)	90.5 dB

(2) 調べた結果から気づいたことや考えたことを書こう。図書室 30.7dB

自分がやっていることとあまり気づいていないことも改めて音をはかると、自分が出している音は意外に大きいことが分かったので音の出し方には気をつけようと思った。

3、学習をふり返ろう。地域の音と快適な生活のために考えたこと

騒音トラブルのように今世の中には音に関するトラブルがたくさんあるけれど、お互いに分かり合える関係を築くことでそういったトラブルが減ると思った。

先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- 映像と共に音を実際に聞かせ、ICTの活用(学習用教材スカイメニューアプリ「発表ノート」)を活用し、全員の考えを共有することができるようにした。
- 実際の騒音計を使って音調べを行ったことが、音の感じ方について考える学習につながるようにした。
- 地域の人々と関わりについて。身近に考えることができるよう、子供たちへのメッセージを地域の人からのビデオレターとして作成した。
- 現代社会では地域との関わりが希薄であり、大人も地域の人との関わりをもつことが少ない。児童に地域との関りをもたせることの大切さを実感させるために音を通して考えさせた。
- 児童は、地域の人との関わりについて、意識して生活することは少なかったがこの学習を通して、地域の人の思いを知ることができ、地域の一員として自分にもできることがあるという自覚をもつことができた。さらに、災害の際には、自らできることをしていこうという意識にもつながった。

児童・生徒の反応

- 実際に音を聞き、体験したことで、人により感じ方が違うことを理解した。
- 自分が出している音は、意外に大きいことが分かったので、自分が音を出すときには気を付けたいと思った。
- 顔見知りになると気持ちが変わってくるので、地域の人と交流を深めたいと思った。
- 昔から聞きなれている地域の工場の音を私は不快には思わないけど、初めてこの土地に来た人は不快に思うかもしれないので、周りのことを考えて生活したいと思った。

教師の変化 (担当、担当外を含めて)

- 情報機器の活用や騒音を測定する体験活動をいれたことで、主体的な学びに結び付けることができた。

その他

- さらに自らの課題を解決する学習に結び付け、総合的な学習の時間と教科横断的な取組をすることで、学習意欲を高め、実践的な学習になることが期待できる。
- 学習用教材スカイメニューアプリ「発表ノート」について
タブレット端末を活用し、学習をサポートするアプリである。児童が各自のタブレットに書き込んだことを電子黒板に投影に全体で共有できる。
今回は、「せせらぎ」「工事の音」「犬の鳴き声」を聞かせ、快適な音か不快な音かを感じた位置にタップさせ、全体で共有することで、人により感じ方が違うことや、その理由を共有できた。